

平成22年度共同研究の概要(成果報告書抜粋)

研究種別: 研究集会

研究代表者: 鹿島 薫 (九州大学 理学研究院・准教授)

研究協力者: 鹿島 薫 (九州大学理学研究院 准教授)、大槻 恭一(九州大学農学研究院 教授)、松永 光平(総合地球環境学研究所中国環境問題研究拠点 研究員)、A. Orkhonselenge(金沢大学環日本海環境研究センター 研究員)、高村 弘毅(立正大学地球環境科学部 教授)

研究題目(和文):

東アジアにおける黄砂と砂漠化の長期変動に関する国際シンポジウム

研究概要(和文):

2011年2月7-8日の九州大学国際ホールにおいて東アジアにおける砂漠化防止のための国際シンポジウムを開催した。その後、8-10日の雲仙阿蘇において野外討論会を実施した。

2011年2月7-8日のシンポジウム参加者は55名、うち海外からの参加者は23名であった。海外からの参加者の内訳は台湾14名、中国5名(新疆ウイグル自治区3名、四川省成都市2名)、モンゴル1名、韓国3名である。合計23件の講演がなされ、砂漠化防止に関する幅広い視点からの議論を進めることができた。特に、8日には若手研究者セッションを持ち、日本、モンゴル、中国、韓国の大学院生が自分たちの研究成果を講演した。

2月8日の午後からの雲仙阿蘇での現地討論会には主として海外から参加者(22名参加)が参加した。

島原市などの現地機関が対応し、環境の保全整備、環境教育から観光に至るまで、地球環境をテーマとした地域と政府機関、大学の連携活動について幅広い討論がなされた。

会議の成果としてのプロシーディングの印刷発行を行った。

(会議のプログラムは英文編に記述した。)